

高知労働局長が「ベストプラクティス企業」を訪問しました（土佐酸素株式会社 高知工場）

高知労働局（局長 柳澤 恭仁）では、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組の一環として、長時間労働の削減を始めとする「働き方改革」に資する取組を積極的に実践している企業（**ベストプラクティス企業**）を局長が訪問し、取組内容について意見交換するとともに、その様子を広く報道機関を通じて紹介しました。その取組内容をご紹介します。

概要

- 訪問日時 令和2年11月19日（木） 13:30～
- 訪問企業 土佐酸素株式会社 高知工場（高知県高知市長浜）



【企業データ】

- ・創業 1943年
- ・事業内容 高圧ガスの製造・販売等
- ・代表者 代表取締役社長 野村 茂
- ・従業員数 56名（令和2年10月現在）

取組内容

1 計画的な無理のない業務運営と多能工化

- a 時間外労働は原則として行わない方針とし、無理のない業務運営を行っている
- b 営業部門は計画を立てやすいルート営業を主体としている
- c 女性事務員にもガス関係の資格取得を奨励し、多能工化を図っている

2 各種休暇制度の拡充と取得促進

- d 有給の夏季休暇と誕生日休暇を年1日ずつ取得可能としている
- e 年次有給休暇の取得促進を図るため、取得日数が少ない者に対しては管理者による声掛けを行っている
- f 子が10歳になるまで看護休暇を取得できるようにしている

3 従業員を大切に

- g 60歳以上の高齢者1名を除き、全員が正社員である
- h 定年まで勤務してもらうことを会社の誇りと考えている

成果

- 上記取組内容を継続的に実施し良好な労務環境を持続。
 - ① 時間外労働時間数は、1か月平均4.4時間、最長でも10時間以内
 - ② 有給休暇の平均取得日数は11.2日、取得率は約60%
 - ③ 社員の定着率が高く、結婚や出産で退職する女性も極めて少ない

担当役員との意見交換

1 計画的な無理のない業務運営と多能工化

- a 創業時より時間外労働は原則行わないことを会社の方針としている。ガスの注文量の予測が可能なことから、予測に基づいて余裕を持った生産及び営業計画を立て、時間外労働が生じないような業務運営を行っている。
- b 営業は、計画を立てやすいルート営業を主体としている。
- c 女性事務員にも業務内容の理解を深めるためガス関係の資格の取得を奨励している。他に人がいないときに、問い合わせがあっても対応することができるようになった。



【担当役員と意見交換を行う柳澤局長(奥左から2人目)】

2 各種休暇制度の拡充と取得促進



【ガスの充填について説明を受ける柳澤局長(左から2人目)】

- d 有給の夏季休暇と誕生日休暇を各1日、年次有給休暇とは別に付与し、個別に取得を勧奨し、全員が取得している。
- e 年次有給休暇の取得促進を図るため、取得日数が少ない者に対しては管理者による声掛けを行い、取得しやすい雰囲気づくりをしている。
- f 子が10歳になるまで看護休暇を取得できるようにしている。

3 従業員を大切に

- g 高圧ガスという危険物を扱う仕事のため、非正規雇用ではなく正社員として長期的に雇用し育成することが大切であると考えており、従業員は60歳以上の高齢者1名を除き全員正社員である。
- h 入社した以上は、定年まで勤務してもらうことが会社の誇りであると考えている。

従業員との懇談



【働き方改革について従業員と懇談する柳澤局長(奥左から2人目)】

- 職場は風通しが良く、部署を超えて互いに助け合うという雰囲気がある。困ったことや一人では時間内に仕事が終わらないことがあれば、互いに協力しあっている。
- 残業をしないようにするため、効率的に働いて時間内に終わらせることを労働者自身も意識している。
- 残業が少ないため、家庭で育児にも積極的にかかわることができる。
- 自身は育児休業を2回取得した。その時は多くの社員が、仕事について協力をしてくれたため、安心して取得することができた。
- 年次有給休暇は取りやすい雰囲気、取得状況が少ない者には、上司だけでなく職員同士でも声掛けをしている。